アルゴリズム 第9回 学習ノート

KCS北九州情報専門学校

第3章 擬似言語

擬似言語による配列の基本操作 (P86~)

配布

演習1

植物園の1週間の入園者人数が、1次元配列「TAB」に格納されている。1週間の入園者合計を、合計エリアに求める疑似言語を作成せよ。

〇主プログラム:合計計算

〇整数型:TAB[7]={0,85,100,95,120,180,300}

〇整数型: i , 合計

演習2

次に示す表の要素O番目から4番目までの合計を5番目に格納する疑似言語を作成せよ。

〇主プログラム:合計計算

〇整数型:TBL[6]={50,70,85,10,55,999}

〇整数型: i

配布

配布

演習3

次に示す表TBLの要素の値について、奇数番目の要素の合計をKIに、偶数番目の要素の値の合計をGUに求める疑似言語を作成せよ。

TBL (1) (2) (3) (4) (5) ··· (20) (50 (70 | 85 | 10 | 55 | ··· 43

KI GU

〇主プログラム:合計計算

〇整数型:TBL[1:20] = { 50,70,85,10,55,...,43}

O整数型: i , KI , GU

配布

演習5

次に示す表「TA」の要素の内容と、表「TB」の対応する要素の内容の和を表「TC」 に移送する疑似言語を作成せよ。

TA 50 70 85 10 55 + + + + + + +

TB 5 7 8 1 5

\[
\begin{array}{c|cccc}
\pi & \cdots & \cdot

〇主プログラム:合計計算

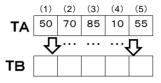
〇整数型:TA[1:5] = {50,70,85,10,55}

O整数型:TB[1:5] = { 5,7,8,1,5 }

〇整数型:TC[1:5], i

演習4

次に示す表「TA」の要素の内容を表「TB」に移送する疑似言語を作成せよ。



〇主プログラム:合計計算

〇整数型:TA[1:5] = { 50,70,85,10,55 }

〇整数型:TB[1:5]

〇整数型: i

配布

演習6

表「TAB」の要素には、整 数値のOと1が格納されて いる。Oの数と1の数を数 える疑似言語を作成せよ。

 (1)
 (2)
 (3)
 (4)
 (100)

 TAB
 0
 1
 1
 0
 ...
 1

〇主プログラム:合計計算

O整数型:TAB[1:100] = { 0,1,1,0,···,1 }

〇整数型: i , 合計0 , 合計1

配布

配布

演習7

表「TAB」の要素には、整数 値が格納されている。記憶 領域「SU」と同じ値の要素の 数を数える疑似言語を作成 せよ。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(100)
TAB	35	10	5	100	 15

KOSU

SU 10

〇主プログラム:合計計算 〇整数型:TAB[1:100] = { 35, 10, 5, ···, 15 } 〇整数型: i , SU = { 10 } , KOSU

配布